

都市大 執念で接戦制す

5連覇を狙う「王者」の都市大塩尻が、3セットを終えてセットカウント1-2と窮地に立たされた。「ストリートで抑える気持ちだった」とセンターの堀内玲楠(3年)。

岡田隆安監督が「負けパターンだった」と追いつめられ、動揺してもおかしくない展開

となった。だが、選手たちの表情からは焦りは感じられず、そこから本領を発揮。最後は勝利への執念で勝利、意地のぶつかり合いを制した。

岡田隆安監督が「負けパターンだった」と追いつめられ、動揺してもおかしくない展開



【都市大塩尻ー長野日大】第4セット、スパイクを決める都市大塩尻の中島

ように、ミスを引きずらずにしっかりと次を見据え、全員でつないでフォロースするチーム力を見せつけた。岡田監督の「必ずやってくる」と信じていた」と

の言葉に、選手の成長が見てとれた。

第1セットは攻撃、守備ともに完璧に近い

戦で涙をのんだ前回大会の雪辱を期す。

内容で、全国ではそれをどこまで継続できるかが鍵になる。チーム最多のアタック得点を挙げたサイドアタッカーの中島優花(3年)

は「レシーブ力、アタック力をもっと高めたい」と力を込める。初

戦で涙をのんだ前回大会の雪辱を期す。

この記事・写真等は市民タイムスの許諾を得て転載しています。無断で複製等、著作権を侵害する一切の行為を禁止します。

学校法人 五島育英会